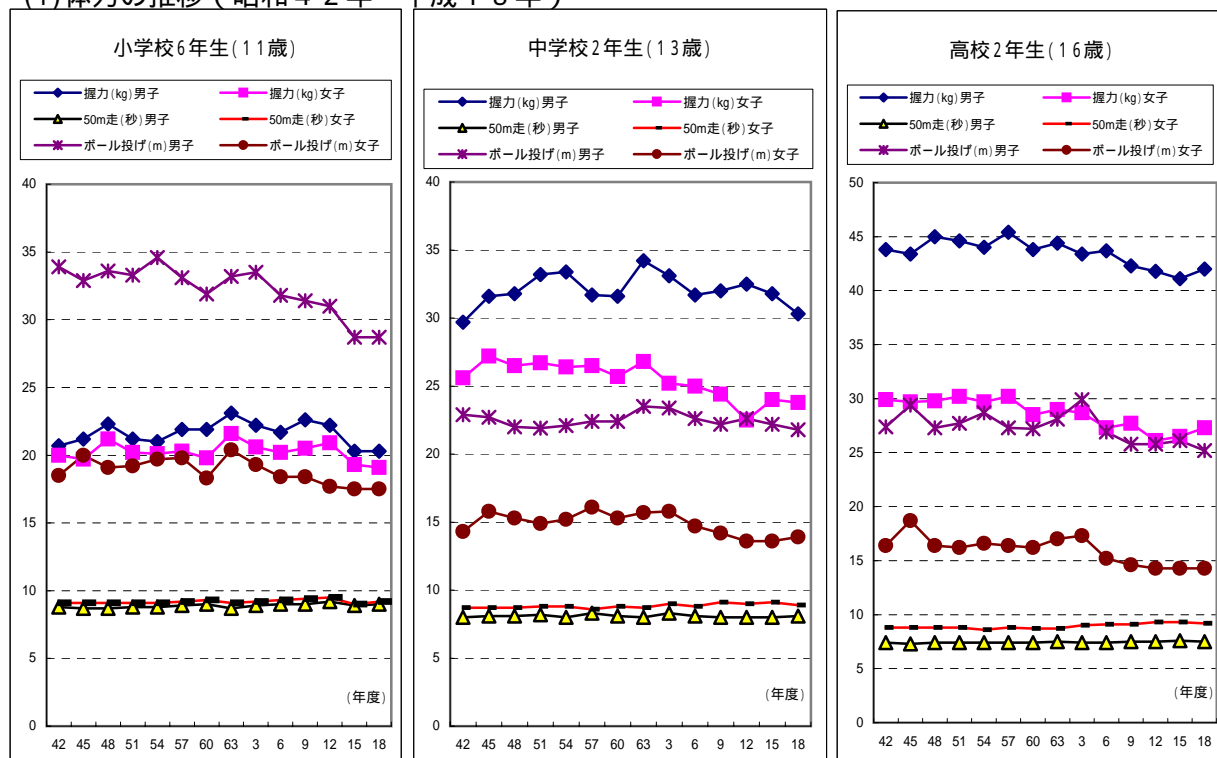


資料 調査結果（抜粋）

(1) 体力の推移（昭和42年～平成18年）



昭和42年からの体力の推移を、小学校6年生、中学校2年生、高校2年生の握力、50m走、ボール投げでみると、横ばい若しくは低下傾向が依然として続いている。

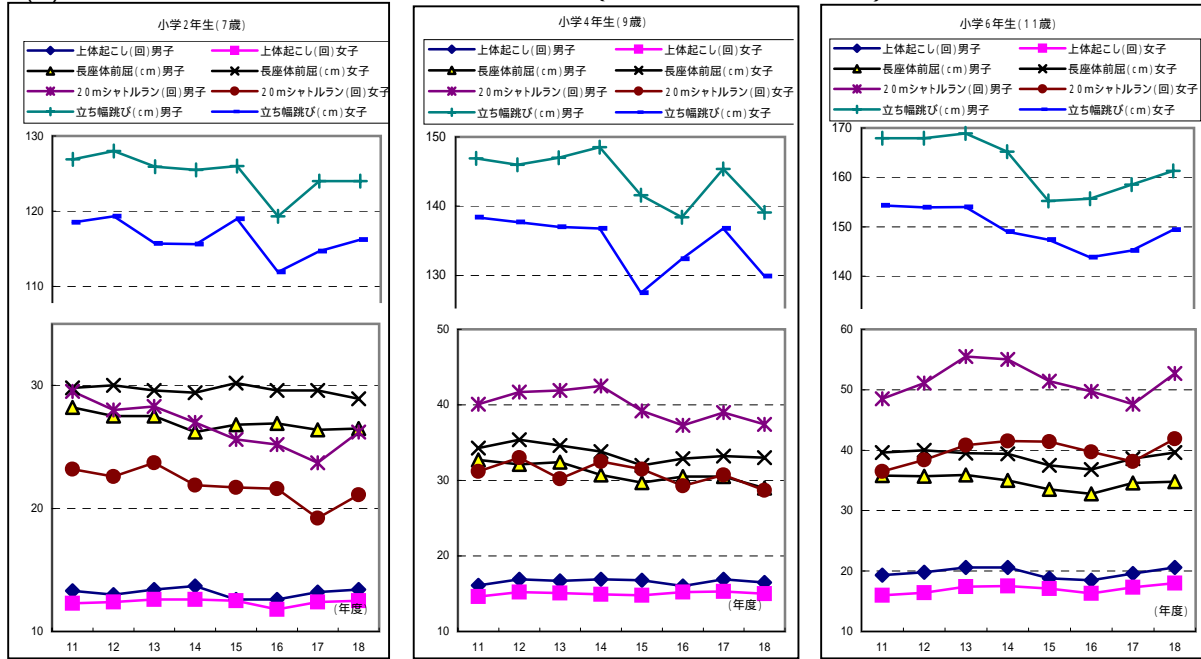
(2) 平成18年度長野県の平均値（H17県平均との比較）

項目	年齢	小学校						中学校			高等学校			内容
		6才 (小1)	7 (小2)	8 (小3)	9 (小4)	10 (小5)	11 (小6)	12 (中1)	13 (中2)	14 (中3)	15 (高1)	16 (高2)	17 (高3)	
握力 (kg)	男	9.7	11.5	13.5	15.1	17.6	20.3	24.8	30.3	36.1	39.4	42.0	44.3	握力計使用
	女	9.0	10.6	12.1	14.0	16.7	19.1	22.3	23.8	25.5	26.2	27.3	27.9	
上体起 こし(回)	男	11.5	13.4	15.3	16.5	19.0	20.6	22.7	26.3	28.2	27.0	28.7	30.0	30秒間の上 体起こし回数
	女	10.9	12.5	14.4	15.0	17.8	18.0	18.8	20.8	21.8	19.7	20.6	21.1	
長座体 前屈(cm)	男	27.1	26.5	28.7	29.0	31.2	34.8	38.3	41.7	44.7	46.6	48.1	49.7	長座で前屈
	女	29.7	28.9	31.3	33.0	35.2	39.6	41.3	43.1	45.2	46.1	45.2	45.7	
反復横 とび(点)	男	25.2	29.9	33.7	35.7	40.7	43.0	45.5	48.2	51.4	52.1	53.4	54.2	20秒で線を 越す点数
	女	24.9	28.9	32.0	33.6	38.6	40.7	40.2	42.2	43.3	42.5	42.1	43.9	
20mシャトル リ(回)	男	17.8	26.2	33.4	37.4	46.4	52.7	62.8	78.4	84.0	80.4	85.1	87.1	20mの折り 返し回数
	女	14.9	21.1	25.2	28.7	37.4	41.9	44.1	54.2	54.5	43.3	47.4	47.4	
50m 走(秒)	男	11.4	10.6	10.0	9.6	9.4	9.0	8.6	8.1	7.7	7.6	7.5	7.4	
	女	11.7	10.9	10.4	9.8	9.6	9.2	9.2	8.9	8.8	9.2	9.2	9.3	
立ち幅 とび(cm)	男	111.3	124.0	134.1	139.1	143.4	161.3	184.0	197.7	214.3	216.6	218.7	224.4	
	女	103.3	116.2	125.2	129.9	138.0	149.4	160.2	166.1	169.2	164.6	165.8	167.0	
ボール 投げ(m)	男	9.3	12.5	17.2	20.2	23.8	28.7	19.1	21.8	24.5	24.8	25.2	26.6	
	女	6.0	7.9	10.8	12.1	15.0	17.5	12.9	13.9	15.3	14.0	14.3	14.7	

ボール投げは、小学生が「ソフトボール」で、中・高校生が「ハンドボール」である。  
 は昨年度の平均を上回っているものである。

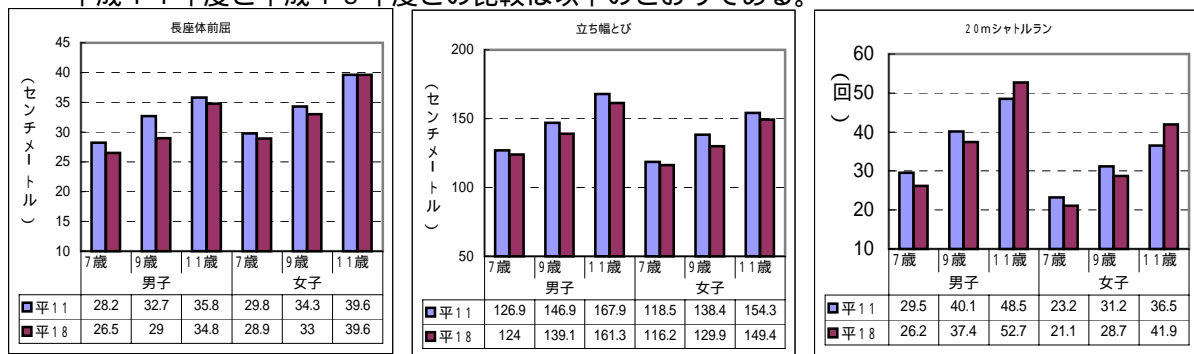
平成18年度の児童生徒の体力水準は、調査結果の平均値において、小学校53%、中学校46%、高校58%、全体で53%の項目において昨年度を上回る結果となった。

### (3) 小学生の過去8年間における体力の特徴(平成11年～18年)

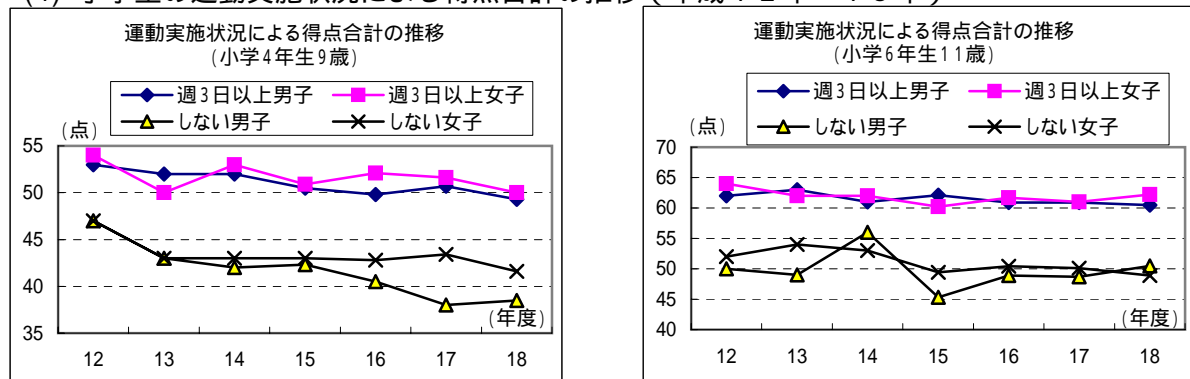


筋パワーの指標である立ち幅跳びと柔軟性の指標である長座体前屈は、すべての年度・学年でほぼ平成11年度の数値を下回っている。  
 全身持久力の指標である20mシャトルランは、2年生では男女とも平成11年度よりも低い値を示したが、6年生の女子は平成11年度以来最も高い値となった。

平成11年度と平成18年度との比較は以下のとおりである。

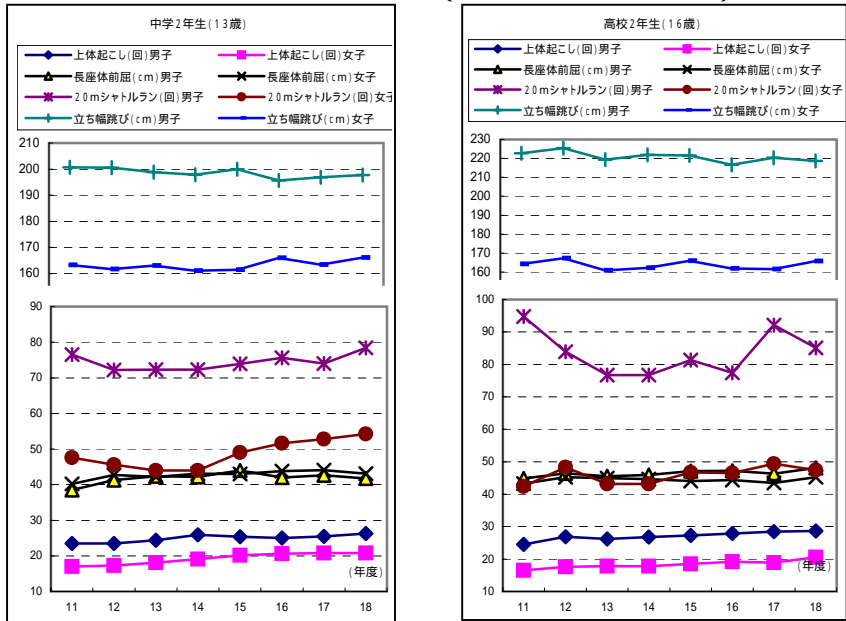


### (4) 小学生の運動実施状況による得点合計の推移(平成12年～18年)



4年生では、どちらの群も平成12年度以来最も低い値となった。特に「しない」群では、男子で8.5点、女子で5.4点の低下がみられる。  
 6年生の「しない」群の女子では、平成12年度と比較して3.1点低い値を示した。

(5) 中・高生の過去8年間における体力の特徴（平成11年～18年）



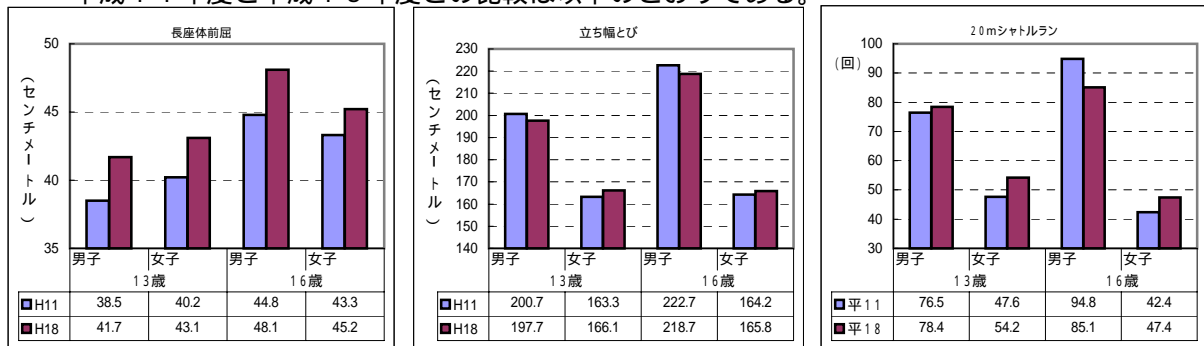
柔軟性の指標である長座体前屈は、中学校2年生、高校2年生ともすべての年度で平成11年度の数値を上回っている。

筋持久力の指標である上体起こしは、中学校2年生男子が26.3回、女子20.8回、高校2年生男子28.7回、女子20.6回とともに平成11年度以来最も高い値となった。

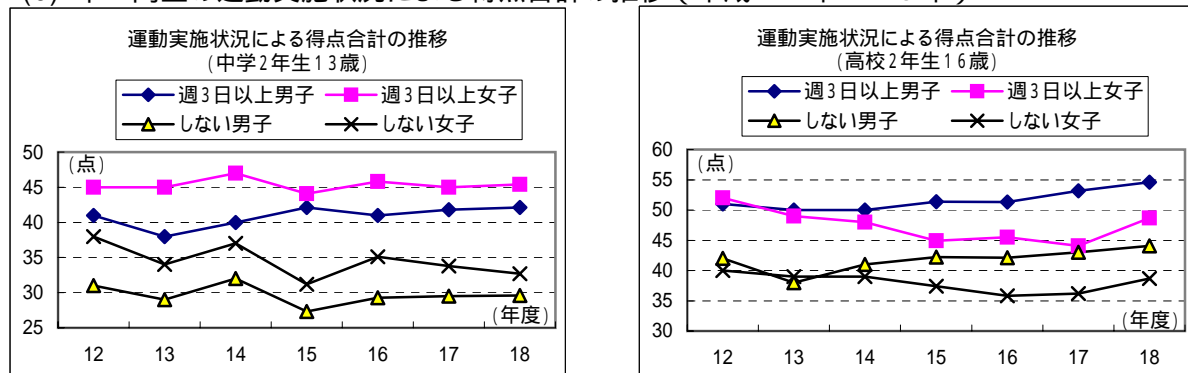
筋パワーの指標である立ち幅とびは、±3cmの幅で推移している。

全身持久力の指標である20mシャトルランは、中学校2年生では男子が78.4回、女子が54.2回で、ともに平成11年度以来最も高い値となった。高校2年生では男子はすべての年度で平成11年度の数値を下回っているが、女子はほぼ横ばいに推移している。

平成11年度と平成18年度との比較は以下のとおりである。

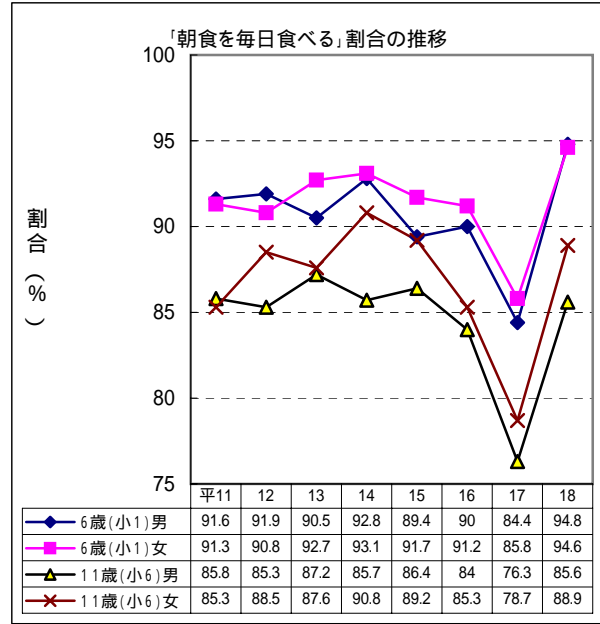
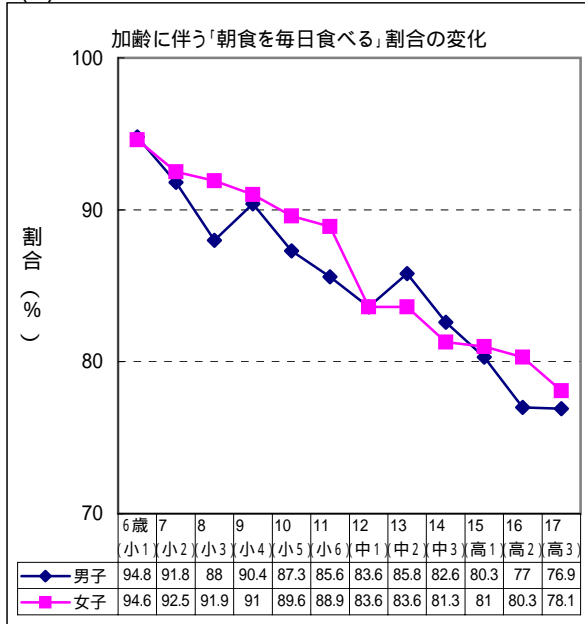


(6) 中・高生の運動実施状況による得点合計の推移（平成12年～18年）



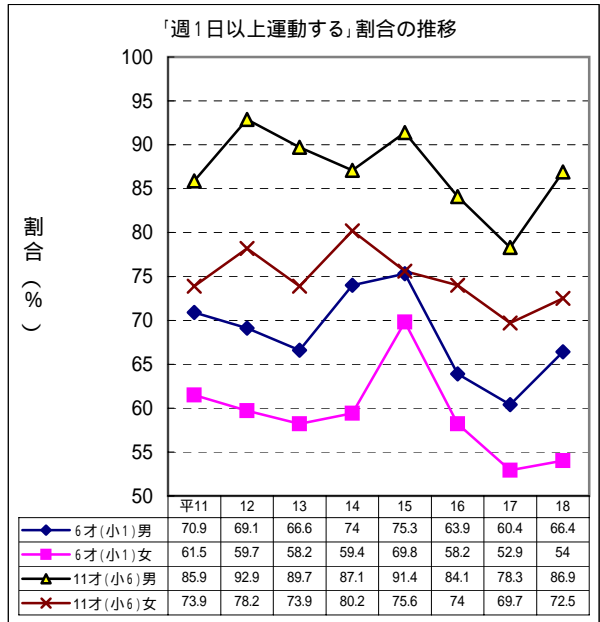
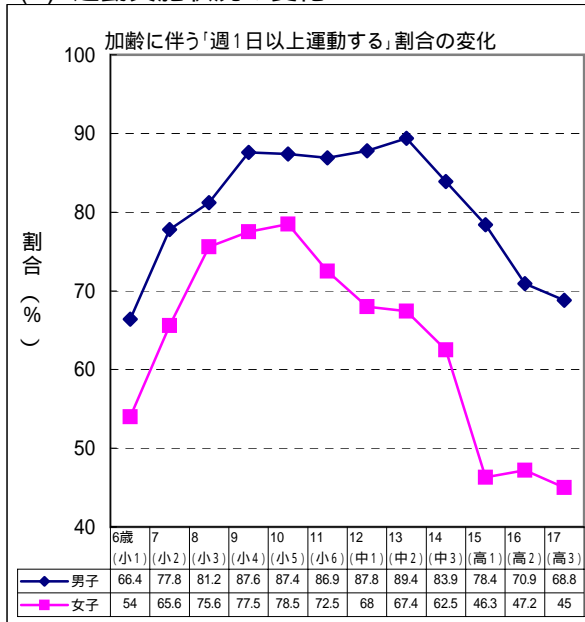
中学校2年生では、「しない」群の女子はすべての年度で平成11年度の数値を下回っている。高校2年生では、どちらの群も向上傾向であるが、女子は平成17年度まで低下傾向がみられる。

(7) 食生活の状況



「朝食を毎日食べる」割合は、加齢に伴い減少している。小学校2年生（7歳）以降の小学校期と15歳（高校1年生）以降は、女子が男子を上回っている。  
 「朝食を毎日食べる」割合の推移では、平成18年度において小学校1年生（6歳）では男女とも94.8%、94.6%となり実態調査を始めた平成11年度以来最も高い値となった。小学校6年生（11歳）では、男女とも平成15年度以前の値に戻っている。

(8) 運動実施状況の変化



加齢に伴う「週1日以上運動をする」割合の変化では、加齢に伴って増加するが、男子では13歳（中学校2年生）、女子では10歳（小学校5年生）をピークに男女とも減少し、高校生になると大きく減少する。  
 「週1日以上運動する」割合の推移では、平成18年度において6歳（小学校1年生）と11歳（小学校6年生）で男女ともに平成17年度より割合が増加している。平成11年度以降の最高値と比較すると6歳男子が8.9%、女子が15.8%、11歳男子が6.0%、女子が7.7%低い値となった。